

大山地域

まちづくりと公共施設の「これから」を考えるワークショップ

7月22日(日)に開催しました第1回ワークショップについてお知らせします！

本市では、人口減少と超高齢社会の本格的な到来に伴い、今後ますます財政状況が厳しくなることが予想されており、このまますべての公共施設を維持し続けることは明らかに困難な状況となっています。

こうしたことから、限られた財源のなかで、将来にわたって公共施設の適切な維持管理を行うため、施設の再編など「公共施設マネジメント」の取り組みを進めていますが、施設の再編については地域の皆様に様々な思いやご意見があることも承知しておりますので、地域の皆様のご意見を踏まえ、計画を策定していきます。

今年度は、大沢野地域・大山地域の公共施設のあり方について、地域にお住まいの皆様と富山市がともに考えるワークショップを開催し、このワークショップで出たご意見や地域の実情などを受け止め、今後の「地域別実行計画」「リーディングプロジェクト」(次ページ参照)の策定に反映させるとともに、地域の皆様が住み続けたいまちづくりを進めていきたいと考えております。

こちらの「ニュースレター」は、ワークショップで検討されている内容をお知らせするとともに、広く地域にお住まいの皆様のご意見を募集するため、お配りするものです。

富山市における公共施設の現状と課題

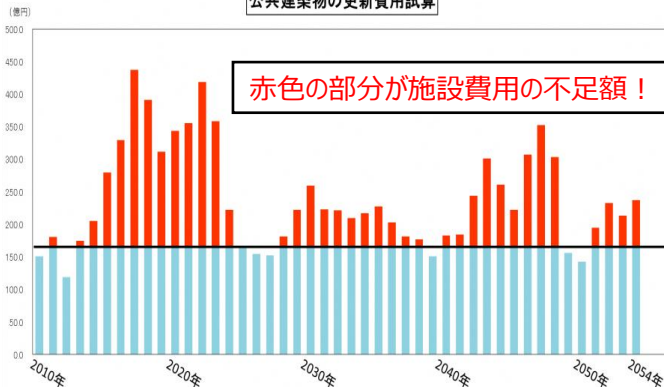
◆ 公共施設の老朽化

富山市の公共施設の築年別整備面積を見ると、全体の40%がすでに建築後30年以上経過しています。

これらの築30年を超える建物は今後、大規模修繕や建替えが必要となり、多額の費用が必要となることが想定されます。

今ある公共施設をこのままの規模で維持すると、今後40年間で約3,300億円、年平均82.5億円が不足すると見込まれます。

公共建築物の更新費用試算



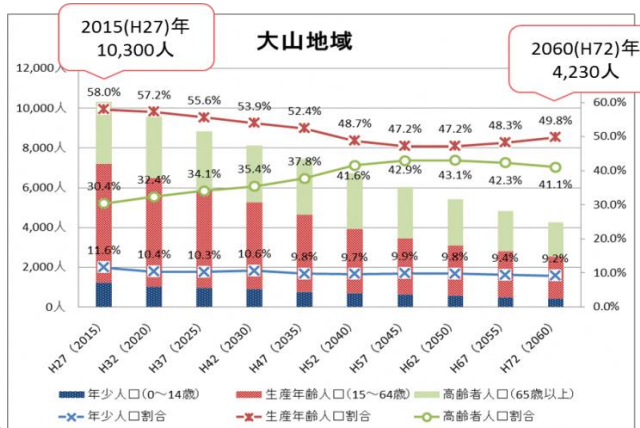
※横線は直近の公共施設への投資額の平均

◆ 人口減少

富山市の人口は、平成72年(2060年)には、現在から10万人以上減少し、約302,000人になると推計されています。

なお、大山地域では、平成72年(2060年)には、現在の人口の半数以上が減少し、4,230人になると推計されています。

人口減少、そして少子高齢化の進行により、市税などが減収し、公共施設にかけられる費用はますます減少することが見込まれます。



地域別実行計画・リーディングプロジェクトの策定

地域別実行計画とは

地域別実行計画は、地域の方のご意見や地域の実情を踏まえ、**公共施設の用途別に将来の整備方針を定めるもの**です。

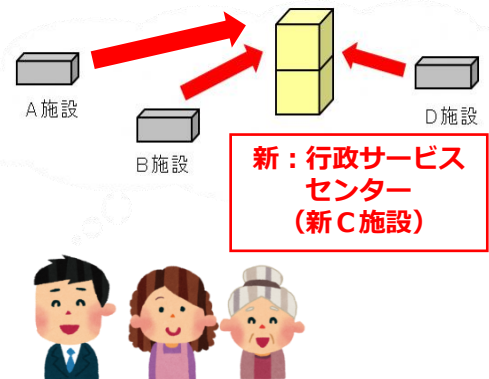
ワークショップでは、地域の課題を踏まえ、特色を反映した再整備の方向性についてご議論いただきます。

リーディングプロジェクトとは

リーディングプロジェクトは地域の核となる地域生活拠点（郊外の串とお団子のお団子エリア）において、**大山行政サービスセンターを核に、公共施設の再編を検討するもの**です。再編の検討対象となる施設・事業については、具体的な実施スケジュールを明記します。

ワークショップでは、どのような機能を持ち、どのような施設とするかをご議論いただきます。

イメージ図：
リーディングプロジェクトによる再編



ワークショップの流れ（予定）

富山市	ステップ1 進め方 最終目標の設定 課題の抽出	ステップ2 地域の課題と 課題解決の方策	ステップ3 再配置案の提示 長所・短所 (比較衡量)	ステップ4 再配置案の選定	市が「地域別実行計画「リーディングプロジェクト」を策定
	第1回ワークショップ 7月22日	第2回ワークショップ 9月2日	第3回ワークショップ 10月21日	第4回ワークショップ 12月23日	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 進め方の確認 ● 検討にあたっての前提条件の理解 ● 地域別実行計画、リーディングプロジェクトの内容理解 ● 普段感じている公共施設を取り巻く課題 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域を取り巻く公共施設の課題 ● 課題解決の方向性、アイデア出し 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域にある公共施設の今後の方向性（用途別方針） ● リーディングプロジェクトによる再配置案の検討（市が作成した案がWSなどの意見を踏まえて作成されているか） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 案の絞り込み ● 修正用途別方針案の妥当性確認 ● 再編を進める上での配慮事項 	
	ニューズレター	ニューズレター	ニューズレター オープンハウス	ニューズレター	
地域の皆様とのコミュニケーション					

オープンハウス：住民の皆様が集まる施設などで行うパネル展示型説明会です。ここでも意見をお聴きします。

大山地域 第1回ワークショップが開催されました

7月22日（日）、大山地域市民センターにて、「大山地域 第1回まちづくりと公共施設の「これから」を考えるワークショップ」が開催されました。大山地域にお住まいの29名の方が参加され、活発な意見交換が行われました。今回のワークショップでは、4つのグループに分かれ、ワークショップの進め方の確認と、大山地域の公共施設の現状と今後について課題だと感じていることについての議論が行われました。最後には全体で議論した内容を共有し、第1回のワークショップを終えました。



第1回ワークショップの様子

第1回ワークショップで皆様からいただいたご意見

◆ 計画検討やワークショップの進め方について

■ 地域別実行計画の考え方や検討の進め方

- 施設を減らすことを考えるだけでなく、安く住みやすい住宅を整備するなど、積極的に地域を活性化して人口を増やす努力をすることも必要ではないか。
- 次の世代に負の遺産を残すわけにはいかない。少子高齢化やコンパクトシティの視点から考えても、施設複合化などによる公共施設再編が必要だと思う。
- 施設再編は理解できるが、減らしすぎて不便にならないように、これまで提供されていたサービスの維持や高齢者のアクセスを考えてほしい。
- 施設再編のことだけではなく、魅力ある、住みたくなる地域にするにはどうしたら良いか、広い地域内のどのエリアに人口を集約させるのかといったまちづくり全体のことを考える必要があるのではないか。
- コスト削減を目指すのであれば、施設数を減らすことだけでなく、そこで働く職員の削減も考える必要がある。施設の複合化は職員数の削減にもつながると思う。
- 富山市としては大山地域などの周辺地域よりも富山駅周辺に居住を推進したいと考え、そこに力を入れているように感じる。

■ ワークショップの進め方

- これまでも大山地域のまちづくり計画を市と住民とで話し合ってきた。大山行政サービスセンター周辺については既に要望も出しているのだから、そういった過去の経緯や提案内容を踏まえた上でワークショップの検討を進めてほしい。
- これからの地域を担う若者や子育て世代や人口の多い大庄地区からの参加者が少ないのが気になる。ワークショップへの参加が難しいのなら他の機会を作って、多様な意見を吸い上げ、反映してほしい。
- このワークショップが地域のまちづくりも検討する場なのであれば、検討対象とする施設の幅を広げ、民間施設や自然や水源など地域の資産などについても話し合うべきではないか。
- 複合施設の先進事例を知りたい。その際、特定の方向に誘導されないように幅広く事例を選んでほしい。
- 大沢野地域と大山地域では市の力の注ぎ方が異なる、大山は何もしてもらっていない、と思っている住民も多い。大沢野でも検討が同時並行で進むので動向が気になる。
- 説明を受けたが、ワークショップで話し合う公共施設の範囲やどの程度深く話せばよいのかがわからない。

◆ まちづくりの現状と課題

■ 人口減少

- 地域内には若い人が増えている大庄のような所がある一方で、核家族化が進んで若い世代が市の中心部に移ってしまい、早いペースで人口が減少している所もある。
- 核家族化が進んでおり、富山市の中心に近い所に人が移ってしまう。地域から人が減り、公共施設や商業が成り立たなくなっていることに不安を感じている。
- 空き地や空き家が増えてきているので、住宅を整備するなどまちづくりのために活用することを考えてはどうか。

■ 生活圏・アクセス

- 地域が広く、上滝などの中心部と山間地では発展の度合いが違うので、居住エリアによって生活圏や利便性が異なる。
- 地域内にスーパーやドラッグストアがないため買い物に不便だ。アクセスのことも考えた上で店舗が整備されるとよい。
- 高齢になると車が運転できなくなるので、安価で使い勝手の良い公共交通の充実を図っていく必要があると思う。
- 将来的には自動運転が普及すると思うので、施設までの移動手段の確保として公共交通の拡充以外の解決策も考えられるのではないか。
- 駐車場の広さも車でのアクセスの良さに影響するので、駐車場の整備も重要だ。
- 狭い道が多いため高齢者が運転していると危ない。もう少し広い道路を整備してほしい。

■ まちの活性化

- 人口が減少し、商店の後継者もいないため地域経済が停滞している。企業誘致などを積極的に行ってまちを活性化させる必要があると思う。
- 住民の視点から考えるだけでなく、県外から富山に来る人達の視点からも施設を考えてはどうか。人が集まるようになれば雇用も生まれる。
- レジャー施設は人を呼べるものだが、今は車があるので足を延ばして大規模な人気施設に行ってしまう。大山地域内でレジャー施設を維持するのは難しいのではないか。

◆ 公共施設の現状と課題

■ 集会施設

- 上滝公民館には100人規模で集まれる部屋がないので、必要な時には地域市民センターを利用している状況だ。
- 女性会がイベントで出店協力をする際などに調理スペースが必要だが、以前よりも場所が限られてきている。農村環境改善センターなどの調理室がある施設が廃止される場合には、他に場所を確保することを検討してもらいたい。
- 公民館の稼働率は示されたデータよりも良いのではないかと印象があるが、広い和室などの使い勝手のあまりよくない部屋は空きが目立つ。

■ 文化施設・図書館・博物館等

- これまで大山文化会館で実施してきた成人式などの行事ができる場所が必要だ。大山文化会館のホールほどの広さでなくても良いので、200～300人が収容できるスペースがあるとよい。
- 音楽専門のホールではなく多目的スペースでも構わないので、住民の文化、芸術活動のための場を確保してほしい。
- 中学校を近く建て替える話があると聞いたので、新たな複合施設ができるまでの間に大人数が集まることのできる場所がなくなってしまうのではないかと心配だ。
- 子育て世代が利用しているので図書館機能は残してほしい。リーディングプロジェクトの施設に複合すれば、多世代が利用しやすくなるのではないか。
- 大山歴史民俗資料館は今の場所のままでは来訪者の増加が見込めないのだから、上滝の中心地に移転するか、呉羽にある市の民俗資料館と統合してはどうか。

■ 学校・幼児・児童施設

- 小学校の児童数が減っているため、統廃合を進め、小学校を選択制にすることで校区外からの通学も積極的に促すなどして児童数を増やすべきだ。
- 小学校はいつかは合併することになっているが、登下校時の安全性や利便性が確保されるように、スクールバスの運行も含めたアクセス手段の検討をしてほしい。
- 小学校は避難場所にも指定されており、地域コミュニティの核になっているので、統合してなくなるのは困る。
- 夏場は熱中症等の危険があるので、公共施設の再編よりも先に学校にエアコンを設置してほしい。
- 大山には児童館がなく、現在の子育て支援センターは手狭な状況だ。児童館と子育て支援センターを併設した幼児から小学生までが利用できる施設があるとよい。呉羽会館にあるようなミニ児童館でも構わない。
- 小学校の統廃合だけでなく保育所の統合も進める必要があると思う。

■ レクリエーション・観光施設

- スキー場は周辺の自然環境も良く、大山地域の魅力のひとつといえる。外から人を呼べるものだと思うので、スキー場を残し、地域のまちづくり、魅力づくりの核にしたい。
- スキー場はスノーボード用の設備やスキーの後のアフターの場が整っていないために、客数が減少してしまった。他の地域に対抗するには新たな投資が必要になるので、道の駅などのスキー場に代わる観光の目玉が必要だと思う。

■ その他

- 遊具のある公園や子どもの遊び場が少ない。小さな公園はあるが遊具が古かったり雑草が多く、十分な管理がされていない。
- 市民の交流の場となるイベントスペースがあると良い。孤立しがちな子育て世代が多世代と触れ合えるし、商工会などがイベントを企画しやすくなる。
- 上滝の上滝幼稚園と保健福祉センターの跡地を更地にしないのであれば、民間と連携をとり、建物を利用できるようにしたらどうか。
- どの公共施設も利用者は少ないが、駐車場スペースは十分すぎるほどあると思う。
- 若い世代は少し遠くても、お金を払ってでも自分の行きたいと思う良い施設があれば行くので、地域内の公共施設をほとんど使っていないのではないかな。

◆ リーディングプロジェクトについて

■ 複合施設の機能面

- 一カ所で行政の手続き、買い物、集会、学習などの用事が済ませられると、便利で住民が集いやすい施設になると思う。
- 機能を複合することで、子どもから高齢者までが利用でき、世代間交流が図られる施設にしてほしい。
- 現在の大山行政サービスセンターにある銀行や社会福祉協議会などの機能は、そのまま残してほしい。
- 多目的スペースなどの交流施設、ホールやサークル活動の場などの文化施設、子どもの遊び場や児童館などの子育て支援施設、スポーツ施設、スーパーやカフェなどの店舗、商工会支部センターや観光協会のサテライトといったものが複合できるとよい。
- 「よってかれ家」のような高齢者のたまり場になる場所があるとよい。運営面も参考にしてほしい。
- 公共施設にコンビニ、スーパー、銀行などの民間テナントを入れることを検討すべきではないか。買い物が不便な地域なので、まちづくりの点から考えてもそういった店舗が複合できるとよい。
- どこにでもあるような機能を合わせるのではなく機能を特化した特色ある施設にして、全国から注目されるようになるとうい。
- 複合施設が新たにできたとしても魅力がないと行かないと思う。活動の制限が少なく使い勝手が良い、集客力のあるイベントが開催されているなどのソフトが重要だ。企画ができる人材も必要だろう。

■ 複合施設のアクセス面

- アクセスや防災面を考えると、複合施設の立地は現状の行政サービスセンターの場所がよいのではないかな。
- 複合施設の立地については十分検討する必要があると思う。駅からのアクセスの良さを重視すると駅との複合も考えられる。
- 居住エリアによっては複合施設までが遠い。駐車場の確保や施設までの公共交通の充実など、交通アクセスについても同時に整備を進めてほしい。

ご意見募集

ワークショップに参加される方だけでなく、多くの大山地域の皆様の意見を今後の計画に反映させたいという考えのもと、ご意見を募集します。

- ワークショップで検討されている内容について
- 大山地域のまちづくりや公共施設について

下記の「お問い合わせ先」まで、メール・ファクス・郵便・持参により、どうぞお気軽にお届けください。差し支えなければ、ご住所、お名前、年齢、性別、連絡先の記載をお願いします。

お問い合わせ先

富山市企画管理部行政管理課
公共施設マネジメント推進班
電話：076-443-2021
ファクス：076-443-2170
E-mail：gyousei-01@city.toyama.lg.jp

皆様のご意見をお待ちしています！



公共施設マネジメントに関する情報

富山市の公共施設マネジメントに関する情報はHPでご紹介しています。

<http://www.city.toyama.toyama.jp/kikakukanribu/gyoseikanrika/sougoukanrikeikaku/>
[sougoukanrikeikaku.html](http://www.city.toyama.toyama.jp/sougoukanrikeikaku.html)